2023 環境特集

東興ジオテック

2030年ネイチャーポジティブの実現に向けて

法面緑化で使用されてきた〝外国産在来種〟が「生物多様性国家戦略2023－2030」に生物多様性を脅かす危機として明記され「2030年ネイチャーポジティブ」の実現に向けた外国産在来種を使用しない法面緑化のロードマップが示されました。当社は、長年にわたり国内産在来種子を使用した地域生態系と生物多様性に配慮した法面緑化を実践しており、外国産在来種を使用しない「生物多様性国家戦略対応工法」を積極的に社会へ提供してまいります。

■斜面樹林化工法（ＱＳ－980148　ＶＥ掲載終了）

国内産の木本植物を計画的かつ効率的に導入して法面を樹林化することにより、木本植物の根系が活きた補強土として防災効果を発揮させ、形成された木本群落が周辺の森林環境との調和を図ります。

■原風景緑化工法

国内産の草本種子を吹付けて在来草本で法面を急速緑化することにより、日本の原風景（草原）を思い起こさせる景観の形成を図ります。

■エコストライプ工法（ＱＳ－150044－ＶＲ）

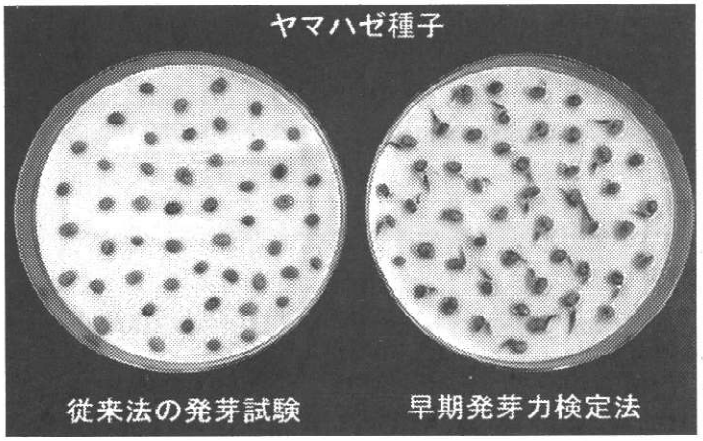
法面に植生基材を吹き付ける緑化領域と、植生基材を吹き付けない自然侵入領域を帯状に造成することにより、導入種による計画的な緑化と周辺植生の自然侵入促進の両立を図ります。

■レミフォレスト工法（ＱＳ－110018－ＶＲ掲載終了）

在来種子の飛来が期待できる凹凸の激しい岩盤法面に対し、施工地周辺から飛来してくる種子を効率よく捕捉して緑化する自然侵入促進工です。

■ＲＳセンター

国内産の種子の貯蔵・検査・出荷を一元管理する専用施設で、施工地周辺の植物種子を用いた地域性種苗利用工の準備工として活用できます。



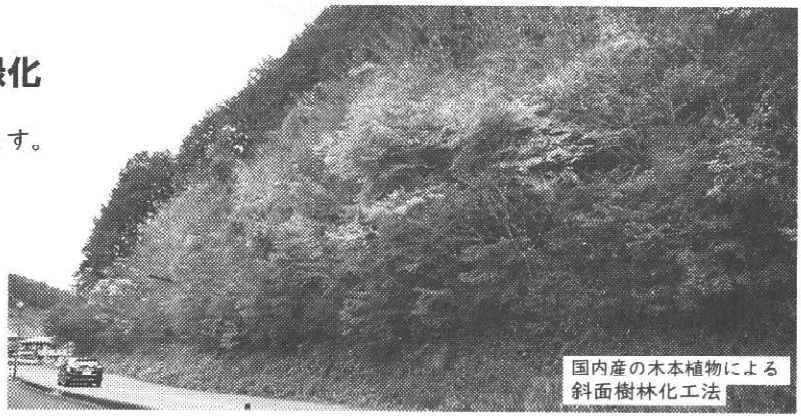
早期発芽力検定法（播種後5日目の発芽試験と早期発芽力検定法の比較）

ＲＳセンター（国内産在来種子専用貯蔵施設）

STOP！外国産在来種による緑化

技術力で生物多様性国家戦略2023-2030の実現に貢献します。

1．地域生態系と生物多様性に配慮した独自工法を多数保有
2．独自工法で使用する国内産種子を当社RSセンターから調達
3．RSセンターを地域性種苗利用工の準備工施設として活用可能



東興ジオテック
TakaMatsu Group
本社　〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-7
TEL 03-3456-8761 URL https://www.toko-geo.co.jp
東北支店：022-772-6066 東京支店：03-3456-8771 中部支店：052-369-1500
大阪支店：06-6456-5877 北陸支店：076-451-8655 中国支店：082-490-3855
九州支店：092-441-7325

13 気候変動に具体的な対策を

15 陸の豊かさも守ろう

STOP！外国産在来種による緑化

※本誌ヘッダー部の「日刊建設工業新聞」の掲載位置を改変しています。